

平成28年度学校教育自己診断 まとめ

生徒

1. 全般

○分析

「学校へ行くのは楽しい」（設問1）に対する肯定感は、昨年同様で70%となった。生徒が、学校生活を前向きにとらえる割合が年々上昇しているものとする。また、否定感を示している生徒が昨年とほぼ変わらず、25%となっている。5年前から推移を見てみると、少しずつではあるが肯定感が上昇し、否定感が下降しているため、生徒にとって居心地の良い学校になっているのではないかと考えられる。

「学校の特色はよく出ている」（設問2）に対する肯定感は昨年と比べ49%と上昇した。否定感も昨年より28%と減少しており、不明も23%と前回に比べ減少していることから、生徒は本校の特色について、十分自覚していないところもあるが、学校の特色が全面に出していないということが分かる。普通科総合選択制を活かした教育課程やガイダンス機能、開校以来徹底している生徒指導等の成果が数字となって表れてきている。

○課題

昨年に引き続き、何においても、「厳しさの中にも温かさを持った生徒指導」「落ち着いて安心して授業を受けられる学校」が根幹にある。落ち着きを基盤にして更に何ができるのかをプロジェクトで模索し、学校全体で推進していくことが望まれる。特色に関しては、今後もアピールしていくべきだと思う。

2. 生徒指導・進路指導

○分析

「学校生活について先生の指導は納得できる」（設問3）は肯定感が48%（否定感34%）で、昨年は拮抗していたが、今年は肯定感が否定感を大きく上回っている。「学校は生徒の意見をよく聞いてくれる」（設問4）の肯定感は43%（否定感36%）で、昨年同様、肯定感が否定感を上回っている。昨年より生徒の意見を聞くことができているが、指導に関しては納得できていない生徒が半数いる。生徒が納得できるよう根気よくコミュニケーションをとっていく必要がある。

「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」（設問7）肯定感68%、「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」（設問8）肯定感71%と昨年より減少しているが、長い目で見れば上昇傾向にあるため、引き続き個々の生徒に対して、きめ細かく指導する体制を充実させていきたい。

○課題

生徒指導に関しては、指導の内容について教員全体で共有し、常に吟味・改善していく必要がある。また、何でも生徒のいうことを聞くということではなく、高い肯定感にならなくても、生徒にとって必要な指導であることを、ねばり強く全教員が統一して理解させていく必要がある。

3. 相談体制・人権教育

○分析

「いじめやもめごとなど、先生は色々な問題を見逃さずに対応してくれる」（設問5）は、肯定感が41%で、否定感（37%）を上回ってはいるものの、不明が22%もある。だが「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」（設問6）の肯定感は昨年とほぼ同様に数年前と比較すると高い水準である。否定感も30%とほぼ変わらない。不明も19%で、横ばいの状態であるが、担任や学年、また顧問の先生全員が、生徒の様子を細かく観察し、会話が密にできているということではないだろうか。相談室を積極的に利用できるように取り組んでいる結果が、ようやく出てきたと思われる。「不明」の回答が多いのは、これらの設問の状況におかれている生徒が少ないこともあり、仕方がないかもしれない。またいじめやもめごとが、日常にあまりないことから、「不明」の回答が多いという推測もできる。

「人権の大切さについて考える機会が多い」（設問9）は、肯定感（50%）と昨年に比べて5%減少しているので、人権学習等の機会を生かしていきたい。

○課題

地道に生徒の観察を行い、常に教職員に見守られている、という状況を作っていく必要がある。広報も工夫をしながら積極的に行い、取り組みをしっかりと伝えていくとともに、事後アンケートなどの検証をより精密に行い、次につなげていく必要がある。

SCの配当時間が年々減ってきているのもう少し増やしていき、毎週カウンセルを受けられるようにしてほしい。

また人権に関しては、生徒が身近に感じることができる内容を選択しとりいれることで、より考えやすくなり、結果もでてくると考えられる。

4. HR活動・エリア選択・科目選択

○分析

「ホームルーム活動は活発で、クラス全体で積極的に関わっている」（設問10）は肯定感54%（否定感29%）となっている。生徒会行事などは年々充実してきた、生徒の満足度も高くなってきていると思われる。

「エリアの仕組みは、説明を聞いてよくわかる」（設問11）、「選択科目は、自分の興味・関心・適性・進路に応じて選びやすくなっている」（設問12）は、それぞれ68%（設問11）、62%（設問12）となっている。エリア・科目選択については、ガイダンス機能を高め、生徒にとってわかりやすい形になってきていると思われる。

○課題

ホームルーム活動については、生徒会の活動等が充実してきたが、否定感が約3割もあるので、各クラスで生徒の状況にあわせた活動を、内容や方法を工夫して生徒を巻き込みながら実施していく必要がある。

エリア・科目選択が高評価になっているのは、ガイダンス部、担任等によるガイダンスシステムがうまく機能していることの表れだと思うが、この結果に満足せずさらに向上を目指すべきである。

5. かわち野高校の良いところ

○分析

最後に昨年から新しく質問内容を加え「あなたが思うかわち野高校の良いところ」という設問で、肯定感が高い順に並べると、【自転車で通学できる】これは立地的なことが影響していると考えられる。次に【生徒指導がしっかりしている】これは、生徒指導の先生方をはじめ、全教員が徹底して指導している結果だと考えられる。【エリアや選択科目等、興味に応じて学べる】と【充実した進路指導】エリアや選択科目また進路指導等はかわち野高校のアピールポイントの一つなので、広報活動などを通して今以上に次年度のコース制にもつなげていきたい。

その他【行事が盛んである】【クラブ活動が盛んである】【同級生だけでなく、先輩・後輩と仲が良い】などの選択肢は肯定感が約60%という結果になった。そして肯定感が低かった選択肢は【魅力のある先生が多い】と【学習施設や運動施設が充実している】であった。数値だけを見ると約半数だが、生徒にとって魅力のある先生とは自分に対して都合のいい先生や、やさしい先生であるという見方も考えられる。したがって数値にだけとられるのではなく、生徒が成長できるよう、愛のこもった厳しい指導も時には必要となってくる。施設面においては、コース制によりアクティブラーニング教室やマルチメディア教室などが設置される。今後、限られた施設ではあるが、十分に活用し、教師一人ひとりの魅力を発揮できるようにしていきたい。

○課題

教員全体を通して生徒指導は高い意識を持って実行しているので、成果があがっている。またこの結果に満足せず、さらに指導を的確に徹底して行っていきたい。生徒指導の項目でも述べたが、第一に生徒のことを考え、嫌われてでも生徒を成長させるために、厳しい指導をおこなわなければならない。そのことを教員間で再確認し、全員で指導をしていくべきである。

またアンケートの結果から学校としての基盤はできあがっているので、授業内容や行事、部活動などの枝の部分になるところを学校全体で改善していき、生徒が充実した学校生活を送れるような環境を、生徒と共に築きあげていかなければならない。特に行事や部活動を含む特別活動に関しては少人数の生徒達だけでなく、生徒全体の参加率を増やしもっと充実させる必要がある。